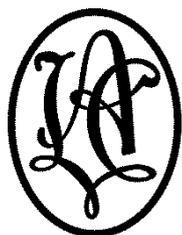


2017



J・A・C

(第 39 号)

千葉支部だより



平成 29 年 6 月発行
日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三
編集者 吉野 聡
事務局 〒283-0116
千葉県山武郡
九十九里町西野672-2
三木雄三方
TEL 0475-76-9467
E-Mail cib@jac.or.jp

平成 29 年度通常総会 5 月 13 日(土)

千葉支部 10 周年 新たな 10 年に向けスタートを



平成 29 年度日本山岳会千葉支部通常総会が千葉市において開催された。

冒頭、三木支部長から連休中の道迷いでの遭難等を例に、「房総の山を低いからと言って決して甘く見ないで、初心に帰り取り組んでいく」そして「10周年を節目の年として、次の10年に向けた新たなスタートとしたい」との挨拶があった。

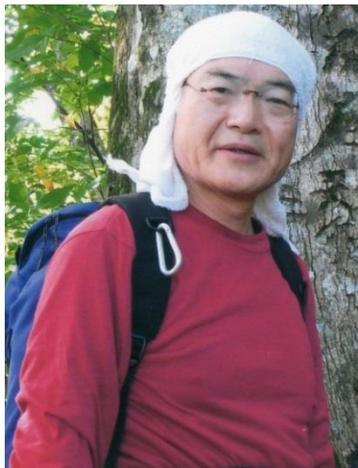
引き続き議事に入り、平成 28 年度事業報告、決算報告、準会員制度発足に伴う規約改正、29 年度事業計画、予算及び役員選任の各議題とも全員異議なく可決された。また、28 年度中に会員数 2 増で 95 名となり、会友は 13 名が入会したとの報告があった。

総会終了後、浜口欣一会員から「槍ヶ岳と慈恵医大槍ヶ岳診療所」と題した記念講演があり、講演終了後、恒例の「美弥和」において懇親会を開催、大いに盛り上がった。 (吉野聡)

記念講演 「槍ヶ岳と慈恵医大槍ヶ岳診療所」

講師 慈恵医大山の会 浜口欣一会員

日本山岳会医療委員長でもある浜口欣一会員から「槍ヶ岳と慈恵医大槍ヶ岳診療所」と題したお話を伺った。



槍ヶ岳開山の歴史、各登山ルートから見た槍の穂先、高山植物、診療所での様々なエピソードを交えた楽しく有益な講演であった。

・山では、距離、時間よりも自分の疲労度をよく見て

行動しなければならない。

- ・コバイケイソウなどが大量に咲くとき虫刺されの患者が多くなる。
- ・受診者は高山病が多い。それも中高年。
- ・睡眠薬の副作用には呼吸抑制・筋弛緩作用があるので、高所ではこの呼吸抑制が大きな問題であるので、服用は避けた方が良い。
- ・高山病では脳に微小出血が発生している。
- ・脳出血を発症して死に至った症例について詳しく説明していただく。



- ・過換気症候群については、自律神経がやられて不安・興奮・緊張・恐怖が重なりパニックになってしまうので高い山では危険を伴う。
- ・急性高山病でダイアモックスを使用するが、この薬は腎臓からアルカリ性の重炭素酸塩の排泄を促進させて、体液を酸性にする。その結果、高所で過換気状態からアルカリ性に傾いていた体液を酸性側に引き戻し、換気量を穏やかに増加させる。したがって、利尿剤ではこの効果がない。
- ・最後に「山が人をつくる。人が人をつくる」という言葉で講演を閉めた。

今日の浜口先生のお話をよく覚えておき、山に行く際は十分注意していく必要があると思っ
た。(吉野聰)

【総会及び講演会参加者】

岩尾富士夫、上村紀子、黒田正雄、小疇尚、香高真奈美、櫻田直克、佐藤明夫、塩澤厚、篠崎仁、鈴木美代、節田重節、高橋琢子、高橋正彦、津田麗子、土屋満、甘楽敦夫、波木正司、新村貞男、能美勝博、羽藤美代子、浜口欣一、松田宏也、三木雄三、三田博、三田芳江、柳下忠義、安間繁樹、柳川しげよ、山口文嗣、山崎完治、山田和人、山田紀夫、山本哲夫、湯下正子、吉永英明、吉野聰、杉本正夫、新井好夫、宇津木仁典、梶田義弘、齋藤米造、塩塚生二、竹園清孝、平出正美、神山良雄、鎌谷繁 (敬称 略)

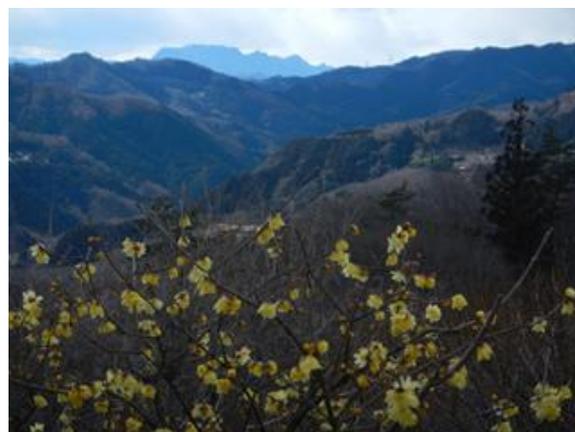
蠟梅真っ盛りの宝登山へ晴香園の子供たちと

2月11日(土・祝)

杉本正夫

この所船橋歩こう会の役員としてほとんどの土日がつぶれ、平地ばかりを歩いていましたが、役員の仕事も離れ少し余裕も出ましたので、3年ぶりに登山靴を始め登山用具などを取り出しそのまま使えそうなのを確認して、多少体力の衰えを懸念しましたが久しぶりに山行に参加しました。

雲一つない青空のもと午前10時に秩父鉄道野上駅に晴香園の7名を含めた20名の参加者が集合し、注意事項、自己紹介をして出発です。最初平らな道が万福寺を過ぎると長瀨アルプスの急な登りの登山道になります。3年間平地ばかり歩いていた身にはこれがこたえるのですが、約10分で尾



《蠟梅と両神山》

注意が必要です。とは言え私は転んでしまいましたが……

長瀨アルプスも終わりに近づくと、どこまで続くのかと見上げる階段が待ち構えています。気を引き締めて一步一步刻んで行き、ついに頂上に立つと一面黄色い蠟梅が香り豊かに出迎えてくれました。疲れを忘れる瞬間です。それにしても晴香園の子供たちのいつもながらの元気なことには脱帽です。

山頂での昼食時寒くなり上着を羽織って気が付いたら、いつの間にか朝の快晴が曇り空に変わっていて、雲の間から太陽が顔を出すと暖かく、隠れるとスーと寒くなることの繰り返しで、改めて太陽の力を実感した次第です。

蠟梅園の中で集合写真を撮って、つづら折りの急坂を時にはショートカットしながら下って行って宝登山神社の前に出ると長瀨駅は間近です。



《蠟梅の林》

根筋に出られてほっと一息つけました。ブランクを埋めるのにこの山を選んだのは正解だったと思いました。この辺り雑木林に覆われていて見晴らしは良くないと思いますが、この時期ならではの恩恵で落葉樹の林は木の葉が全くなく、小枝越しに展望が開け景色を堪能することが出来ました。低山とはいえ北側斜面には多少の雪が残っており

参加者：山口文嗣、三木雄三、湯下正子、上光恵、山崎完治、上村紀子、香高真奈美、羽藤美代子、梶田義弘、梶田天兵、國宗文、船木元、杉本正夫（敬称 略）

雪山山行・快晴の硫黄岳へ

3月11日～12日 三田 博

新宿発あずさ5号で茅野駅に着いたのが午前10時少し過ぎ。美濃戸口までバスで行き、そこからスタートしたのが11時半だった。今日は赤岳鉱泉までなのでゆっくりだ。

歩き始めるとすぐに路面が凍っていたので、安全を考えアイゼンを着ける。3月も半ば近くなり平地では春の気配だが、八ヶ岳はまだ冬の真っ只中だ。休憩を取りながらのんびり3時間半歩くと、赤岳鉱泉のアイスクャンデーと呼ばれている人工氷壁が見えてきた。アイスクライミング中の若者たちが大勢取りついている。その脇で、前日から鉱泉入りした松田宏也さんが出迎えてくれた。松田さんは三つ峠山荘の3代目を赤岳鉱泉の若社長に紹介をするために前日入りしたのだそうだ。山の世界で顔が広くて、面倒見のいい頼れる人柄なのだろう。その松田さんのお陰(!)で、ワイン2本も鉱泉から差し入れてもらった。

個室に荷を解いて、夕食前に早速そのワインを頂く。途中、山本さんと宮崎さんは中山乗越までアーベンロートを見に行ったが、残った我々4人で持参のワインも入れ3本平らげてしまった!!。

夕食は宿名物のステーキを期待していたが、この日はビーフシチューだった。これも美味だった。

翌日も快晴。ゆっくりと朝食を食べて出発する。鉱泉のすぐ裏から樹林帯を上る。山口さんはアイゼン無しだが、他の人はやはり安全第一でアイゼンを使用する。開けた木の間からは、雪を被った筋骨隆々な赤



岳と阿弥陀岳が大迫力だ。宿からおよそ2時間、赤岩の頭直下の急斜面をピッケルとアイゼンを効かせて尾根に出ると、視界が急に広がる。山本さんは三脚を立てて早速、写真撮影を始める。「これだけ穏やかなら赤岳の方が良かったかなあ」などという言葉も出る。

そこからさらに岩場をひと登りすると、硫黄岳の広い山頂に出る。南アから北アの乗鞍・穂高・白馬、浅間山や上越の山々まで360度の視界が広がる。見えないのは横岳から赤岳の稜線の陰になっている富士山だけだ。もっと景色を楽しみたいが、やはり寒い。記念撮影した後、早々に下山する。途中シリセードしたりで、下りはあっという間に鉱泉に戻る。荷物を整理し、昼過ぎに出発。美濃戸で赤岳山荘に挨拶に寄るといふ松田さんと別れて、我々は美濃戸口まで退屈な1時間の林道歩きをする。14時に美濃戸口に着いた。茅野駅前の蕎麦屋で恒例の反省会をやり帰路についた。



参加者 : 三田博 (L)、山口文嗣、山崎完治、山本哲夫 (写真提供)、宮崎美智代、松田宏也 (敬称略)

カタクリの咲く^{みかもやま}三毳山へ

4月2日(日) 山口文嗣

佐野の三毳山は標高 200mあまりの低山ではあるが、関東平野の北部に位置し、眺めが良い。また万葉集にも詠われていて、昔から山野草が豊富などころである。北麓の万葉自然公園かたくりの里はシーズンにはカタクリが群生し、花の名所としても人気がある。今回カタクリの最盛期を狙って計画したところ、会員会友以外も含め 20 人もの方々が参加してくれた。幸い天気も良く、カタクリ最盛期はちょっと過ぎていたが、まだまだ見ごろで、サクラやツツジも彩を添えてくれた。

3時間30分ほどのハイキングであったが、参加者の皆さんも早春の山とカタクリの花を楽しんでもらえたと思う。



参加者：山口文嗣、三木雄三、山崎完治、高橋琢子、上村紀子、山田紀夫、舩木元、廣村恵美子、荒木志津子、飛田徳子、黒田正雄、杉本正夫、三田博、羽藤美代子、湯下正子、坂口久子、梶田義弘、梶田天兵、鈴木操、吉田明子（敬称 略）

「準会員制度」のお知らせ

支部長三木雄三

平成28年10月1日より日本山岳会の「準会員制度」がスタートした。「準会員制度」は、一定の期間、山岳会の活動に触れて理解したうえで、通常会員になってもらう新しい制度。入会金・会費や手続きなどのハードルを低くすることで入会を促進したい考え。

- 1 入会資格：日本山岳会の趣旨に賛同する個人(年齢制限なし)
- 2 準会員の期間：3年間(期限内に会員に移行しない場合は除籍)
- 3 準会員入会金：5,000円(ただし、26歳未満は入会金を免除)
- 4 準会員年会費：6,000円(初年度は入会月により月割がある)
- 5 入会手続き：入会申込書に、会員1名の紹介が必要。会員の知り合いがない場合は、支部事務局で紹介する。

詳細は、公益社団法人日本山岳会のホームページか、日本山岳会事務局へ

新緑の西印旛沼と吉高の大桜

4月15日(土) 渡邊信一

山田川岸バス停に集合した。そこから双子橋を渡って印旛捷水路（西印旛沼と北印旛沼を繋ぐ中央排水路である）を北印旛沼に向かって歩く。捷水路周りの溪谷は新緑を迎え、山桜もあちこちで咲いていた。



(捷水路とナウマン象の化石発見地点)

途中、印旛捷水路掘削の際、発見されたナウマン象の化石の地点でそのレリーフ像を見学した。象は3万年前に生きていたと。北総線の高架を渡り、吉高の里山に入り、大桜を目指した。吉高山桜は樹齢300年を超える一本桜で、見事だった。多くの花見客で賑わっていた。回りには野菜畑があり、参加者はここで新鮮な蕪等の野菜を試食賞味し購入した。



(吉高大桜をバックに吉高地区の里山に)

参加者： 渡邊信一(L)、工藤まり子、柳下忠義、高橋正彦、坂上光恵、湯下正子
渡邊すみ子、上村紀子、羽藤美代子 (敬称略)

昼食は観光客が吉高大桜へむかう道は農家の売店が並んでおり、その里山の野原で味わった。今回は女性が多かったので会話も楽しかった。帰りは北総鉄道（成田空港路線）に平行して国道464線が通じており、その側道に沿って北総の里山を眺めながら松虫寺に向かう。

松虫寺は松虫姫（聖武天皇の皇女）を祭った寺で、病気の為この地に来て治療して回復後に京都に戻ったという伝説があります。本堂前の枝垂れ桜も満開でした。



(松虫姫伝説の松虫寺をバックに)

反省会は近くの山荘風の松虫コーヒー店でコーヒーを味わい、談笑しました。最後は印旛日本医大駅を目指し、ついでに若菽の我が拙宅にも寄って頂きました。家内自慢の庭も鑑賞して頂きました。皆様方に感謝の一日でした。

丹那断層と函南原生林の自然観察会

4月23日(日)

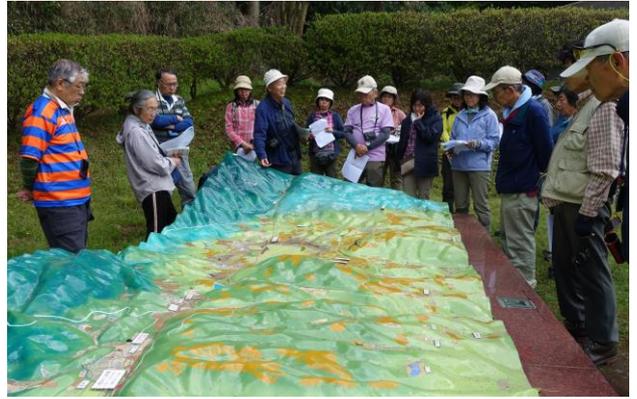
山田紀夫

晴天の4月23日(日曜)、講師の小疇尚先生指導の下に自然観察会が行われた。参加者は、先生、一般参加者(3名)を含め23名だった。午前7時30分、津田沼駅前集合しマイクロバスで最初の目的地「函南原生林」へ向かう。

東名高速を順調に走り、午前9時30分、函南原生林の入口に到着する。ここは、江戸時代から禁伐採林として手厚く保護されて今に至っている。現在は、学習の道として自然観察路が整備され一般に開放されている。標高600~800mに位置しブナ、イヌシデなどの温帯林から樹齢500年以上。また、林道は標識が整備されていて、木々には名前が表示されていた。また、小さな草花が沢山あったが、私の知識ではその名前は全く分からないが、鈴木さんや高橋さんなどは、たちどころに草木の名前を言い当てその知識の豊富さには感心させられた。小さなアップダウンを繰り返し心地よい森林歩きを約2時間楽しみ昼食をとり、次の目的地である「丹那断層公園」へ向かう。

最初に丹那断層のズレの跡が良くわかる「火雷神社の断層」で先生からお話をしていただいた。断層が神社の石段と鳥居の真ん中を通っているため地震時に水平に1mズレたのが良くわかった。公園では、断層地下観察室や丹那盆地周辺地形模型などがあり、断層の様子がさらによくわかった。当時の農家の大変さや丹那トンネル掘削時の苦労話などを先生からお聞きしました。

帰りの高速道路は渋滞もなく予定より少し早い午後5時30分頃、無事津田沼駅に到着しました。



《丹那盆地地形図模型前で小疇先生を囲んで》



《丹那断層公園にて》

(参加者)

小疇尚、三木雄三、星とも子、山田豊子、三浦久美、萩原恵、宇野圭子、香高真奈美、國宗文、高橋琢子、山岡磨由子、柳川しげよ、波木正司、山口文嗣、古谷清美、鈴木操、宇津木仁典、高橋正彦、川島辰雄、柳下忠義、鈴木美代、山崎完治、山田紀夫 (敬称 略)

登山教室指導者養成講習会に参加して

3月4日(土)～5日(日)

三田博

昨年に続いて本部主催の指導者養成講習会に参加してきました。長野県・小諸の安藤百福センターで1日は机上講習し、2日目は籠ノ登(かごのと)山に登りました。

長野県警の弦間山岳救助隊副隊長、山岳気象予報の猪熊隆之さん、山岳ガイドの黒沢徹さんの講習から印象に残った話を以下に箇条書きします。

- ・遭難者の5割が60歳以上。
- ・遭難者の8割が未組織登山者。
- ・遭難原因は「天候急変」「装備不十分」「歩行技術の未熟」「無理な計画」
- ・夏山の事故の特徴は「岩場でのヘルメット未着用」「岩場でのストック使用」
- ・救助ヘリは飛ぶまで点検に30分掛かる(すぐ飛べない)。
- ・ホバリング中、ヘリ直下は台風並みの風圧。不安定な場所で待機しない。(風で飛ばされる)
- ・ヘリに乗るのは負傷者だけ、ザック放置。同行者も乗せない。
- ・ヘリから真下は見えない。
- ・ヘリ要請時は服・装備の色、合図の方法を言う。

例:○色のタオルを振る。ツェルトを振る。

ライトを点滅させる、など。

- ・110番通報でGPS探査できる。携帯は要請後に待ち受け状態にする。

- ・遭難は100%報道発表される。
- ・登山届は、ネット経由の方が検索しやすい。
- ・天気予報は麓の天気。
- ・予報が外れるときに遭難が起こる。天気図を読み判断する。
- ・笠雲は下り坂、朝の雲海は晴れる。西の空で天気を判断。



- ・登山リーダーは役割分担の一つ。経験浅くても自覚があればよい。
- ・転滑落は体力不足が原因。ウォーキングだけでは鍛えられない。

2日目は黒沢ガイドと一緒に高峰高原より籠ノ登山に登りました。順番にリーダーとサブリーダーになり、実際に他の者に指示や説明を行い方法を確かめた。「失敗しないと身に付かない」との黒沢ガイドの説明に納得した。

「第1回 山岳自然環境セミナー」に参加して

変わりつつある千葉の山の環境

3月11日(土) 高橋琢子

ここ数年、分水嶺・郡界尾根踏査に参加し、千葉の山を以前よりよく歩くようになった。それにつれ、10年前には気にならなかったイノシシによる荒れた登山道、防護柵や罠の増加、キョンの出現など、変わってきた環境について気になり始めた。

そんな時、日本山岳会のホームページの行事案内が目にとまった。一山の自然が崩壊する—と題するセミナーだ。代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターで、山岳団体自然環境連絡会主催で開催されるという。行ってみた。サブタイトルは「深刻化するニホンジカの被害」である。

環境省、山岳ガイド、林業、鳥獣捕獲等事業の各分野から国立公園等の被害の現状、捕獲作業の状況が紹介され、人間との共生は？登山者が観た問題点は？などが討議された。私が驚いたのは、歯止めの掛らないシカの被害の大きさに対する対策の弱さである。高山植物の宝庫の草原が、数年でシカの嫌いな植物しか残らなくなる現状。後手後手になるという対策が成果を見せ始めるのはいつになるのだろうか。数を減らすライチョウなど絶滅危惧種を守る意味でもシカの生息域の拡大を阻止する対策は待ったなし！と実感した。



セミナー参加の後も郡界尾根踏査に参加し、以前にもまして千葉の山の変化に敏感になった。注意深く観察すれば、ついこの間までアオキや笹で一杯だった山肌にアオキがない！山肌が透けて見える！代わりにシカが食べないアリドオシ（別名一両；鋭い棘がある）の群落が出現していた。馬酔木の木も目立つ。千葉の山の自然も崩壊しつつあると思うと心配だ。

こんにちは

やっぱり山が一番好きだったんだ

齋藤米造

横浜から大網白里市に移住し、大好きな千葉の自然を学びたくて“千葉シニア自然大学”に入りました。里山や里海の自然環境、星と宇宙、気象、地形と地質など学ぶ中で、三木支部長が講師の『山歩きの魅力を探る』という講座が2回ありました。古い山靴を引っ張り出して登った10月の富山で、三木さんから入会を勧められ、昨年11月から会友として入会させていただきました。

2回の群界尾根で房総の山の魅力が分かり始め、1月の三つ峠で堅雪に喰い込むアイゼンの音が心地よく、少しづつ戻って来る山靴の感触に堪らず嬉しくなりました。

高校時代は友人と丹沢の尾根を歩いていましたが、その後“浪人生活”からの逃避行で、9月末の燕岳～大天井岳～槍ヶ岳に行ったのが初めての3,000メートル、初めての単独行でした。そこで山の魅力に取りつかれました。何故か誰もいない槍沢で、“やったぞーっ！”とあらん限りのでかい声で叫んでいました。



大学4年間は山岳同好会で山浸けでした。積雪期の富士山、鹿島槍、赤石岳、八ヶ岳、5月の涸沢定着、夏の剣沢定着、その間あちこちの縦走、どの山行も鮮やかに記憶に甦ります。最後は個人山行のmatterホルンで終わりました。

その後は宮之浦岳、白馬など、散発的に登りはしたものの、ワーカーホリックの呪縛から解放されるまでの40数年間はあまりにも長い空白期間でした。久しぶりに山道具屋に行ったら、何もかもすっかり変わってしまって、自分は浦島太郎か？昔はザイルをロープなんて言わなかったのに、と勝手なことをつぶやいていました。

今、セカンドライフの方向がやっと見えてきました。自分の一番やりたいことが何だったかがわかりました。“やっぱり山が一番好きだったんだ”と。

もちろん昔と同じ山はできません。今の自分に合った山がきっとあるだろうと思います。好きなカメラとレンズを持って、自分が本当に満足のできる山の写真を1枚でも撮れればと願っています。

千葉県内一等三角点探訪記 4

大川（おおかわ）標高 206.03m

大川一等三角点は点名だけでは何処にあるのかわかり難いが、千葉支部員なら誰でもご存知の高塚山にある。点名は麓の千倉町大川の地名が付けられている。山裾はマテバシイの純林に覆われていて、県指定の「自然環境保全林」になっている。頂上には高塚不動尊奥の院があり、両脇の山門にはユーモラスな風神・雷神像が鎮座している。三角点はこの頂上から南西に500mほどの、約10m低いピークに設置されている。千葉県内一等三角点のうち最南端の場所である。

三角点名	大川
山名	高塚山
設置場所	山頂
保存状態	良好

(平成 25 年 12 月 24 日訪問)



高塚山山門の雷神



高塚山山頂から太平洋

房大山（ぼうのおおやま）標高 193.58m

房総半島の最西南端、洲崎神社の東約1.8kmの所にある。千葉県内最西端の一等三角点である。西の相模灘に突き出した館山半島にあり、館山湾（鏡ヶ浦）、太平洋から良く望まれ、昔から漁民の目印になっていた。また太平洋戦争中は東京湾に入る艦船の観測所があり、砲台跡などが残っている。北麓の地名を取って坂田大山（ばんだのおおやま）とも呼ばれている。三角点自体の保存状態は良好であるが、標石の上面が通常の+印だけでなく、+に○が刻印されている。○の位置が中心からずれているので、設置後に何らかの理由で刻まれたと思われる。

三角点名	房大山
山名	房大山
設置場所	山頂
保存状態	良好

(平成 25 年 1 月 19 日他日訪問)



三角点上面に○が刻印



山頂からの館山湾

郡界尾根踏査の報告

第 11 回 平成 28 年 11 月 26 日 (土)

山口 文嗣

コース：横尾林道→三郡山→請雨山→安房高山→柚ノ木林道入口→長野田山

長野田山西の柚ノ木林道入口に車を 1 台デポしてから、前回下った長狭街道の北風原（ならいはら）から三郡山下の横尾林道へ出る道を上る。林道入口に電気柵が設置されている。農家の人に電気のスッチの木の、木の仕方を教わり、柵を開けて通る。10 時 35 分横尾林道に着く。2 日ほど前に降った雪が路肩に残っているのに、草むらにちょっと置いた手袋にヒルが付いていてビックリする。分水嶺の時も



《高山林道から見た立派な山容の安房高山》

11 月末にヒルがいたの
で、房総では

11 月いっぱいにはヒルに要注意である。

今日は三郡山 337m、請雨山 320m、安房高山 365m、長野田山 350m と房総分水嶺上の高い山々のピークを踏んで行くが、ピーク以外はほとんど林道歩きなので、行程がはかどった。長野田山から下りて、柚ノ木林道入口に戻り 15 時デポ車に到着した。



《愛宕山の鳥居を
潜り晴雨山の階段
を登る》

参加者：山口文嗣、山崎完治、
小澤けい子、三田博、三田芳江、
鈴木操、吉田明子（敬称 略）

房総の山 伊予ヶ岳（336.6 メートル）

房総丘陵で唯一山名に「岳」の付く山。伊予の国の石鎚山に山容が似ていることから伊予ヶ岳の名前がつけられたと言われている。

南房総市（千葉・君津 410 号）自転車ツーリング途中（190 km）で撮影。カメラ内スケッチ処理で線画作成。

（提供 山本哲夫会員）



第13回 平成29年1月29日(日)

上村紀子

コース：柚ノ木林道入口→香木原峠→鴨川有料道路

私は郡界尾根の山行には初めての参加だったので、「郡界尾根」について調べてみました。「郡界尾根は」は房総半島を東西に走る長大な尾根です。昔の安房国の安房郡と、上総国の天羽郡、夷隅郡を分ける尾根ということです。西は浦賀水道に面した明鐘岬から鋸山、スゲンで名高い嵯峨山、三郡山、この尾根中の最高峰安房高山などのピークを経て、元清澄山から岩高山の峰々へ連なり最後は興津で太平洋に至ります。

10時55分、登り開始。「エッ、ここからなの？」。



香木原峠

登山口は、標識も何もないヤブ道でした。初めての人だけでしたら、入山もままならなかったはずですが。

先頭に行くのは岩尾さん。山のベテランで頼もしい限りですが、それでも地図とGPS、コンパスを出し、細心の注意を払ってルートを確認していきます。「千葉県は低山ばかり」といっても、郡界尾根はアップダウンの連続。痩せ尾根は危険な個所が多く、垂直に近いような下りもあり緊張の連続。地図と首っ引きでルートを探し、道なき道

を進む尾根歩き。新鮮で、夢中になりそうな面白さがありました。

鴨川方面から尾根を伝って来た若い男女に会いました。あまり人が歩かないルートを選んで、こだわりのハイキングをしているそうです。少々驚きました。

途中イノシシ用の罠がありました。このあたりは、タヌキ、アナグマ、ノウサギも飛び回る、房総半島でも特に自然豊かな山域のようです。今回は同じルートで駐車場まで戻りました。次回は折り返し地点からスタートすることになります。今回が何回目か、この先、あと何回歩くのかも知らずに参加しましたが、地図上に南房総を横断する朱線が引かれた時は、大きな感動を覚えることでしょう。とてもロマンを感じます。

どこまで参加できるか分かりませんが、今は全行程を歩きたい気持ちになります。



《郡界尾根から鴨川有料道路に降りる》

参加者：山口文嗣、岩尾富士夫、高橋琢子、山崎完治、小澤けい子、山本哲夫、山田紀夫、鈴木操、上村紀子 (敬称 略)

第12回報告は前回(38号)掲載しました。

お知らせ

●会員の動向

新入会員

H. Mさん 佐倉市
M. Mさん 東金市
M. Sさん 鎌ヶ谷市

新入会友

S. Aさん 東金市
N. Hさん 東金市
M. Yさん 八千代市

転入転出

K. Yさん 京都・滋賀支部より転入
M. Kさん 山梨支部へ転出

訃報

H. T 79歳

●10周年記念式典と記念グッズ

10周年記念式典

期日 : 平成29年8月26日(土)

会場 : 船橋グランドホテル

参加費 : 10,000円

進行 : 記念式典 13:00～

記念講演 14:00～

講師 小疇尚 明治大学名誉教授

祝賀会 15:30～

参加記念品 : Tシャツ (右写真)

後程、案内をお送りしますが会員、会友の奮ってのご参加をお願いします。

写真 早速Tシャツを着用し、トートバックを持った香高会員(総会会場)

10周年記念グッズ

房総丘陵をデザインしたTシャツとトートバックを作製しました。

ご希望の方は、下記あて問合せを。

問合せ先 事務局長 高橋琢子

(下欄左 参照)



申込・問合せ先 事務局長 高橋琢子
支部だより参照

●第33回全国支部懇談会（茨城支部担当）のご案内

1. 期日：2017年10月13日(金)～14日(土)
2. 場所：筑波山温泉「つくばグランドホテル」（無料送迎バス有）
3. 会費：17,000円（一泊二食弁当付、二次会、親睦登山含む）
4. 日程：10月13日(金) 12:00～受付、13:00 開会、13:30～講演会
10月14日(土) 8:00～親睦登山など
Aコース；御幸ヶ原コース→筑波山→白雲橋コース
Bコース；白雲橋コース→筑波山→御幸ヶ原コース
Cコース；ケーブルカーを利用して筑波山自然研究路を散策
Dコース；つくば市内の国土地理院と産業技術研究所を見学
5. 申込み・問合せ：事務局長 高橋琢子（14ページ下欄左 参照）
6. 締切り：7月10日(月)

役員会の報告

- 3月報告** 3月21日(火) 市川アイリンク
出席者 坂上、鈴木、高橋、三木、三田、高橋、山口、山田、山本、湯下、吉野 11名
・10周年事業 Tシャツの作製、デザイン、数量、価格等の検討
・10周年事業を特別会計で管理する

- 4月報告** 4月18日(火) 市川アイリンク
出席者 坂上、高橋、三木、三田、山口、山崎、山田、山本、湯下、吉野 10名
・10周年記念式典 8月26日(土)13:00から 船橋グランドホテル
会費(10,000円)、来賓等参加者数、周知の方法等の検討
・総会に向けて議案書(案)の審議及び役割分担、進行計画
・カムチャッカ参加者17名(支部参加者11名)

- 5月報告** 5月16日(火) 市川アイリンク
出席者 上村、坂上、鈴木、高橋、三木、三田、山口、山崎、湯下、吉野 10名
・総会報告 総会 議案全て承認 出席会員35名 委任状39名(現在会員95名)
講演会46名(会員、会友) 懇親会も盛り上がる
・10周年記念式典 スケジュール ・10周年記念特別会計 会計担当 上村、山崎
・晴香園 山行について子供たちの安全を配慮した基本的な協定締結を検討

山 行 の 予 定

(6月12日以降、支部行事等含)

行き先	日程	申込先	締切	備考
奥武蔵・棒ノ折山	7.2 (日)	山口 文嗣 支部だより参照	6.22(木)	爽快な沢沿いのコースを登る
佐原の大祭	7.15 (土)	三木 雄三 支部だより参照	7.11 (火)	祝・山車祭りユネスコ登録
支部10周年記念カムチャッカ・アバチャ山	7.21 (金) 7.25 (火)	坂上 光恵 支部だより参照	締切終了	
富士山・お中道	8.2 (水)	湯下正子 支部だより参照	7.26(水)	公益事業 晴香園
北ア・白馬岳	8.19 (土) 8.20 (日)	三田 博 支部だより参照	8.4 (金)	大雪渓を登り樽池に下る 19日6:30 猿倉登山口集合
千葉支部10周年記念式典	8.26 (土)	船橋グランドホテル 13:00～ 式典、講演会、祝賀会		詳細14ページ
足利・大小山	9.10 (日)	三木 雄三 支部だより参照	9.5 (火)	「大と小」ツインの山名の山
南ア・光岳	9.15 (金) 9.17 (日)	山本 哲夫 1支部だより参照	8.31 (木)	14日夜発 小屋泊まり 5名まで

印刷

三陽メディア株式会社